

2015-B					
拠出金・基金の 名称		国際開発教育・研究機関拠出金			
種 別		イヤーマーク ノン・イヤーマーク			
【拠出先の国際機関名】アジア工科大学(AIT)					
【所管官庁担当局課・室名】外務省国際協力局国別開発協力第一課					
【当該任意拠出金の目的・用途等】 ○アジア工科大学(AIT)は、工学・技術部、環境・資源・開発学部等の修士課程及び博士課程を有するアジア地域トップレベルの大学院大学。AITのリモートセンシング学科は、邦人教官が中心となり日本の技術や機材、人工衛星システムを活用した同分野の技術者の育成を実施している。 ○当該拠出金は、防災ネットワークの要となる人工衛星を用いたリモートセンシング分野の人材育成を図るため、当該分野のアジアでの中心的存在であるアジア工科大学(AIT)を通じた支援を行うもの。拠出金はAITにおいて日本奨学金として管理され、邦人教官が教鞭をとるリモートセンシング分野の学科の学生に対して奨学金として支給される。					
【最近3年間の我が国支払額及びODA率】					
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率(%)
平成27年度	13,626	124		1米ドル = 110円	100
平成26年度	14,365	148		1米ドル = 97円	100
平成25年度	22,802	278		1米ドル = 82円	100
【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】 ○これまでに我が国の奨学金を得て修士課程・博士課程を修了した学生及び在籍中の学生は900名以上に上る。平成24年度より、我が国奨学金を得た学生は主に邦人教官が教鞭を執るRS-GIS学科を受講することが条件となっており、奨学生の多くは卒業後はこれらの分野の学問を継続したり、自国の政府や国際機関に就職するなど、国家・地域開発に貢献している。また、同奨学生の中には親日家として、日本企業への就職や日本の大学への進学、卒業後邦人教官と継続して交流を続けるものもあり、奨学金により上記目的が達成されていると考えられる。 ○また、我が国を推進する「ASEAN防災ネットワーク構想」においては、ASEAN地域を一体として捉えた観測衛星等を利用した防災ネットワークの構築を目指しており、これに資する防災分野の人材の育成が図られている。さらに、当該技術を活用した開発分野は、交通、農業など多岐にわたり、AITの産学ネットワークを活用したアジア地域の経済開発に資する研究開発と高度な産業人材の育成に果たす役割は大きい。					